

平成28年度県立香住高等学校 学校評価及び関係者評価

「自立して 志や夢を育み 叶える教育活動」生徒の心を感動させる教育の推進

1 教育方針
「真理を究め、責任を果し、敬愛を尽す」の校訓の下、家庭・地域社会と連携して、志や夢を育む教育を推進し、知・徳・体の調和と、こころ豊かで自立した人間を育成する。

2 本年度の目標
(1) 地域に学び、地域に貢献する学校づくりを推進する。
(2) 達成感と自己有用感を育む教育を推進し、自主的に取り組む態度を養う。
1 基礎・基本の確実な定着と学力向上を図り、自己の目標の実現をめざした進路指導を行う。
2 人間的なふれあいと規律を重視する生徒指導を進め、命と人権を尊重する態度を養う。
3 学校・地域社会がそれぞれの教育力を発揮しつつ連携し、体験的な活動を重視した魅力ある教育活動を推進する。
4 教育活動全般を通じてキャリア教育の充実を図り、社会人になるために必要な能力と態度を育成する。
5 豊かな人間性に基づいた教育を実施するため、教職員としての使命感と高い倫理観を持ち、明るく、互いに支え合い切磋琢磨する職場づくりを推進する。

総合判定は、4 できた+3 まずまずできたの合計で以下のように判定した。
80%以上をA優れている
65%以上をB良い
55%以上をCおおむね達成
それ未満をD要改善

■ できた ■ まずまずできた ■ あまりできなかった ■ できなかった ■ 無回答

分類	番号	評価項目	今年度(%)					達成率
			4	3	2	1	無回答	
総務部	1	校内防災体制の充実を図り、避難訓練・消火訓練を通して、適切かつ迅速な行動が取れるようにするとともに、講演等防災教育を実施することで、防災意識を高める。	18.8	34.4	40.6	6.3	0.0	53.2
	2	学校通信の発行やHPの更新に関係部署と連携を図る。記者発表を積極的にを行い、新聞紙上等を通じて本校の教育活動を広くPRする。	46.9	31.3	12.5	9.4	0.0	78.2
	3	「高校生ふるさと貢献事業」に取り組み、PTAや地域と協力して「地域が育てる学校＝地域に学ぶ学校」「地域に貢献する学校」づくりを職員と共に推進する。	28.1	50.0	15.6	6.3	0.0	78.1
	4	施設・設備の定期点検や整備・美化に努め、より良い学習環境を整えとともに事故防止に努める。	12.5	46.9	40.6	0.0	0.0	59.4
	5	保健衛生の充実を図り、感染症や事故防止の啓発を積極的に行って、健康的な学校生活の意識を高める取り組みを行う。	31.3	40.6	18.8	9.4	0.0	71.9
	6	オープン・ハイスクールの企画・運営を行い、中学生・保護者へ積極的にPR活動を行い、入学希望者確保に努める。	46.9	37.5	6.3	9.4	0.0	84.4
教務部	7	事前の学習指導(補習)などによって、欠点者数・欠点数の減少を図る取り組みを推進する。(目標:学期で40人85個以内)	15.6	34.4	37.5	12.5	0.0	50
	8	「課題の発見・解決にむけた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)」の視点から授業改善に取り組み、公開授業や授業研究会などによって、分かりやすい授業を実施する。	9.4	53.1	34.4	3.1	0.0	62.5
	9	授業の振替などによって、自習時間を減少させ、授業確保に努める。	34.4	31.3	25.0	9.4	0.0	65.7
	10	来年度実施教育課程を編成し、使用教科書の選定を実施する。	21.9	56.3	15.6	6.3	0.0	78.2
生徒指導部	11	年度当初に生徒指導基本方針を明確にし、職員及び生徒、保護者への周知徹底と共通認識を図る。	43.8	40.6	9.4	6.3	0.0	84.4
	12	生徒の規範意識、マナー・モラルの向上を図る取り組みを実施し、継続的に指導を行う。	25.0	50.0	21.9	3.1	0.0	75
	13	昼下校のマナー向上と交通安全に積極的に取組、列車の利用や自転車の使用について指導を強化する。	15.6	59.4	25.0	0.0	0.0	75
	14	「いじめ、暴力は絶対に許さない」方針のととも、職員間の連絡を密にし、共通認識を持って対応する。	37.5	40.6	12.5	9.4	0.0	78.1
	15	生徒会やボランティア活動を活性化し、地域と密着した取り組みを積極的に行う。	56.3	31.3	3.1	9.4	0.0	87.6
教育サポート部	16	舎監長と連携し、寮別館の運営を行うと共に、寮生・下宿生保護者及び、下宿先大家さんへの対応を行う。	31.3	43.8	15.6	9.4	0.0	75.1
	17	生徒指導部と連携し、「心のサポートシステム(いじめ、暴力行為減少・克服に向けた実践・研究)」を計画・実践することで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。	25.0	40.6	25.0	9.4	0.0	65.6
	18	サポートを要する生徒のための関係機関との連携、校内サポート会議の開催及び、特別支援教育に関する教職員への理解・啓発を行う。	34.4	34.4	15.6	15.6	0.0	68.8
進路指導部	19	校内外の情報を整理し、回覧や掲示物・情報機器等により情報提供を積極的にを行い、情報の有効活用を促す。	31.3	53.1	12.5	3.1	0.0	84.4
	20	学年・科、関係諸機関とも連携を取りながら、生徒・保護者の進路ニーズを把握し、望ましい勤労観・職業観を育成する。	34.4	40.6	21.9	3.1	0.0	75
	21	学年・科・教科等と連携し、学習合宿や補習など学力向上のための取り組みを推進する。	25.0	56.3	12.5	6.3	0.0	81.3
海洋科学科	22	実習船を幅広く活用し、魅力ある教育の充実を図る。	34.4	28.1	25.0	9.4	3.1	62.5
	23	より開かれた学校を推進するため、本校の持つ人的・物的資源の開放とふるさと貢献事業の充実を図る。	31.3	53.1	9.4	6.3	0.0	84.4
	24	質の高い専門的な教育を展開し、生徒により多くの資格を取得させる。	31.3	43.8	21.9	3.1	0.0	75.1
	25	志望する進路を実現するための情報と学力向上のための知識技能を提供するとともに、生涯にわたって主体的に学び続ける態度を育む。	31.3	53.1	9.4	6.3	0.0	84.4
3学年	26	あらゆる活動においてリーダーの役割を意識させて、将来の地域社会を支える責任感と協調性、コミュニケーション能力を育む。	31.3	53.1	15.6	0.0	0.0	84.4
	27	規範的な生活習慣を確立させ、他者の個性と立場を理解して自己を見つめなおすことのできる態度を育成するとともに、自立して社会における役割を果たそうとする意識を育む。	31.3	46.9	18.8	3.1	0.0	78.2
	28	授業を大切に集中して取り組む態度と基礎学力の定着を目指し、個々の力に応じた課題に取り組む姿勢を育み、学力の向上を図る。	18.8	34.4	34.4	12.5	0.0	53.2
2学年	29	社会や学校の諸規則を遵守させ、自立に必要な行動力、判断力、コミュニケーション能力の育成を目指す。	18.8	34.4	40.6	6.3	0.0	53.2
	30	あらゆる活動を通して互いの個性を認め尊重し合い、達成感・自己有用感を味わわせ、中堅学年としての役割を積極的に果たす態度を育成する。	18.8	40.6	31.3	9.4	0.0	59.4
	31	授業を大切にし、集中する態度と自学自習の姿勢を育て、基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図る。	21.9	46.9	28.1	3.1	0.0	68.8
1学年	32	基本的な生活習慣の確立を図り、規則を遵守する態度を育成する。	18.8	50.0	28.1	3.1	0.0	68.8
	33	自主的自立的な学校生活を通して、周囲の人のために行動できる豊かな心を育む。	25.0	43.8	31.3	0.0	0.0	68.8
事務室	34	学校の窓口部門として、接遇の向上を図る。	25.0	56.3	15.6	3.1	0.0	81.3
	35	事務の簡素化と効率化を図る。	12.5	53.1	34.4	0.0	0.0	65.6

年度末評価	中間評価	増減
53.2	65.7	-12.5
78.2	87.5	-9.3
78.1	78.2	-0.1
59.4	75.0	-15.6
71.9	78.1	-6.2
84.4	84.4	0.0
50	71.9	-21.9
62.5	43.8	18.7
65.7	78.2	-12.5
78.2	78.2	0.0
84.4	81.3	3.1
75	78.2	-3.2
75	68.8	6.2
78.1	84.4	-6.3
87.6	96.9	-9.3
75.1	84.4	-9.3
65.6	81.2	-15.6
68.8	81.3	-12.5
84.4	84.4	0.0
75	84.4	-9.4
81.3	84.4	-3.1
62.5	75.1	-12.6
84.4	87.5	-3.1
75.1	65.7	9.4
84.4	78.1	6.3
78.2	87.5	-9.3
53.2	68.8	-15.6
53.2	59.4	-6.2
59.4	59.4	0.0
68.8	81.3	-12.5
68.8	75.0	-6.2
68.8	75.0	-6.2
81.3	75.0	6.3
65.6	62.6	3.0

総合判定	自由記述(中間・年度末分)	次年度の取り組みと改善策	学校関係者評価
D		次年度、年間行事予定に明確に防犯行事を盛り込み、防災訓練の実施により、防災意識を継続的に維持する取組を行う。	○本校の教育活動について 「昨年度、創立70周年記念式典と但州丸竣工式が無事に行えたことは、良かった」 「海洋科学科において、多くの先輩から引き継いだ研究成果が今年度活かされたことは、良かった」 「今年度、海洋科学科の入試倍率が、推薦、一般共に高くなったことは、良かった」 「学校が抱えている課題が、年々解決されている」 「学校内外で生徒が活躍しており、地域に住んでいる者としても、OBとしても、非常に嬉しい」 「今の高校生は様々な場所で発表する機会が多くあり、プレゼンテーション能力が高い」 「香住高校生が地元にいるときに、夢を語る若者を育てることが大切である」
B	定期のPR担当(教育サポート部)が機能していない。意識が低いように思う。	関連部との役割分担を明確にし、各部への情報提供と報道関係とのさらなる連携を推進する。	
B		香美町との連携、相互協力と情報交換を強化して地域貢献を進める。	
C		年数回の「学校安全点検期間」を設け、事務室と連携した取組を行う。	
B		保健室を中心とした学校保健の推進を継続的に実施する。	
A		本校の特色を生かしたオープン・ハイスクールを教科・学科と連携して、企画・実施を行う。	
D	具体的な取り組みを教務部で提示し、各教科の取組をサポートする体制をつくる	拡大教務部会を定期的に開催し、問題点とその改善策を検討していく。	
C	教科書やアクティブ・ラーニング等の活用を提案し、共有する場を設ける機会があっても良い。また授業中に生徒の発言を促す取り組みやアクティブ・ラーニングについての研修が必要。研究会での授業からの取組を事前にも入れたらいい。回数も増やしてもいい。	教科書でアクティブ・ラーニング型の授業を提案し、共有する場を設ける機会を増やすよう検討する。	
B		引き続き努力する。	○本校の生徒指導について 「香住高校では、スマホやSNSなどに関するルール作りがあるのか。スマホ依存症が問題になっており、心配である」 「部活動の実績などの取り組みを、今後、増やして欲しい」
B	入試システムの改正を視野にカリキュラムの検討を行う次期に求めている	引き続き努力する。	
A		年度当初に、生徒・保護者に向けて指導方針を配布し、機会があるたびに必要な指導を継続する。	
B		職員の共通理解のもと、生徒とも連携しながらマナー等の向上につとめる。	○地域連携について 「近隣の水産関係をはじめとした関係機関との連携を大切にすべき」 「ふるさと教育など、街づくりの基本は地域の足下にある。それらの資源や素材を活かすことが、ふるさと教育の原点である」 「地元の資源や素材、水産業などの関係機関と連携、協力しての取り組みを、今後、増やして欲しい」
B		下校時のマナー指導について懸念があり、必要に応じて立ち見等の対策をとる。	
B		未然防止・早期発見・早期対応のための連絡会や職員のスキルアップにつとめる。	
A		地域貢献(ボランティア活動)について、継続的・積極的に参加させる体制をつくる。	
B		「わかめの研究やアユの放流など、香住高校が地域にあることで、地域の公民館や子どもたちと一緒にふるさと教育などの取り組みができています」 「ふるさと給食やJR香住駅の水族館、成人式の司会など、様々な場面で香住高校が地域に貢献していることが嬉しい」	
A		迅速に情報整理を行い、贈答でわかりやすく、時限を過ぎることのない情報提供を心がけ、資料を閲覧できる環境を整える。	○寄居舎について 「新寮の建設が決まったことは、学校にとっても、生徒にとっても良かった」 「新寮が一日市地区以外に建設されることは、地域から若い寮生がいなくなるなど少し残念な面もあるが、現在、地域の祭りや降雪時の雪かきなど、寮生が地域に貢献してくれていることには感謝している」
B		保護者会の対応やキャリアノートを活用など、3年間の流れを見据えて計画的に取り組む。	
A		学年や教科のバランスを考え、生徒の進路希望に対応できるような努める。	
C		生徒の進路実現の機会を増やし、より多くの体験の場を提供する。そのためには環境整備が必要と思われる。	
A	物的資源が不明瞭。データ化・整理が必要。	ホームページに更新する活動の様子を集約して、気軽に閲覧可能な状態にしていく。	
B	評価方法に疑問がある科目が複数ある。オープンキャンパス中の授業体験が盛っていない気がする。	他校との比較できるような資料を提示する。	○卒業生やOBについて 「東京の香住高校同窓会(同窓会)に出席し、東京でも香住高校の卒業生が多く活躍していることが分かった」 「OBが在校生にメッセージを送る(講演会等)機会があればいいのでは」 「香住高校の卒業生が、香住高校での様々な取り組みに誇りを持っていることが嬉しい」
A		主体的に進路実現・自己実現について考える姿勢を伸ばすことができました。さらに進路開拓室の利用を進めていきたいと思います。	
A		社会一般のつながりを意識させるプログラムに力を入れたのですが、1・2年生の時のように、地域を意識させるプログラムは少なかったと思います。	
B		社会一般のつながりを意識させるプログラムに力を入れたのですが、進路指導に重点をおくあまり、学校の歴史としての意識を醸成させていないといった指摘もなされた可能性があります。	
D		体験的な活動を増やし、興味・関心を高めることで個々の学力向上をねらう。	
D		学校外へ積極的に出向く活動を取り入れ、地域の方々と接する機会を増やす。	
C		総合的な学習の時間、LHRの有効的な活用。	
B		テストの結果から自分の弱点を知り、それを補うための学習計画を立てることで、学力の向上に繋げたい。	
B		学校生活のみならず、課外活動様々の中でも時限を大切に、規則を遵守する態度を身につけさせる。	
B		学校生活だけでなく、地域活動を通して、周囲の人のために行動できる心を養う。	
A	出張、年休の把握に一層努め、職員室との連携を図る	定期的な研修会を開催し、機能向上に努める。	
B		事務改善を積極的に進める。事務処理能力の向上を図るため研修会への参加を図る。	